

忘れられない研修体験

氏　　名　　段 士愛
出　身　国　中華人民共和国
受入自治体　岐阜県高山市
研　修　先　高山市役所



1. 本事業に応募した動機

私は麗江師範高等学校に勤めている段士愛と申します。日本と中国は、英語の勉強を大切にしていますので、私は日本の授業の方法について学習したいと考えました。日本に興味を持った理由は、子供の時に日本のアニメを見たことです。大学時代には、日本語を少し勉強しました。2002年に麗江市が高山市と友好都市関係を結んだことは、麗江市民として嬉しく思い、引き続き日本語の勉強をして、機会があれば高山にも行ってみたいと思いました。詳しく日本の状況を見聞きし、日本人や日本文化に対する認識を深め、日本で体験した良いところを自分の仕事に役立てたいと考えていました。今回、この長年の願いを叶えることができて、本当にうれしく思っています。麗江の将来にとっては、国際観光都市としての発展が極めて重要ですので、この機会に、その面において進んでいる高山市からできるだけ多くのものを学びたいと考えています。

2. 研修の概要

(1) 全体研修

A 東京研修（2013年5月19日～2013年5月21日）

2013年5月19日に来日し、5月21日までの三日間、日本総務省において、CLAIRの開講式、研修プログラムの説明、日本自治体の紹介、日本語能力テスト、自治体の担当との面談などのオリエンテーションを受けました。

B JIAM 研修（2013年5月22日～2013年6月20日）

滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所で日本語を勉強しました。この間、私は「みんなの日本語」を勉強しました。月曜日から金曜日まで本当に忙しかったですが、楽しかったです。毎週火曜日の午後は、日本文化を勉強しました。私は日本の茶道や礼儀や食べ物などを勉強しました。毎週木曜日の午後は研修会でした。私は日本の人口や環境や政府などについて、理解することができました。週末は修学旅行の時間でした。私は琵琶湖や金閣寺や清水寺など有名なところへ行きました。

(2) 専門研修

A 地方行政概要研修（2013年7月、8月）

6月21日から7月19日まで、高山市役所海外戦略室で高山市の行政制度、施設、基本情報を中心に、一般行政研修をしました。毎日、自分ができることを皆さんに手伝ってあげたり、皆さんにいろいろなことを教えてもらったりして、とてもアットホームな雰囲気で研修をしました。私は昼休みの時間を利用して、日本語を勉強しました。同僚に手伝ってもらいました。

7月22日から8月22日まで、高山市教育委員会学校教育課で1か月の教育研修をしました。先生としての私は、日本の教育にも深い興味を持っています。このような貴重な研修機会をいただき、とてもうれしく思っています。学校教育課の皆さんと一緒に学校訪問をし、子供たちとの触れ合いもできました。研究所などの教育施設を見学し、高山市小中学校音楽会にも参加させていただきました。

B 教育研修（2013年8月25日～2014年2月21日）

①中山中学校

8月25日、私は中山中学校へきました。私はALTの先生と一緒に英語の授業に参加しました。中国には、ALTの制度がありませんので、私にとっては興味深く新鮮な制度です。また、私は生徒と一緒に昼食を食べ、掃除をしました。授業の後、いろいろな活動に参加しました。例えば、体育会や剣道や34キロ遠足などに参加しました。



高山の楽しい生活



中山中学校の学生と一緒に

②松倉中学校

9月30日から11月22日まで、松倉中学校で研修しました。英語科教員とよく連

携し、授業参観を積極的に行ったり、授業で生徒の支援にあたりました。ネパール人生徒に対して英語の学習を援助しました。また、自分で料理を作って、職員にふるまうなど、食文化交流も意欲的にしました。

③東山中学校

11月25日から12月25日まで、私は東山中学校で研修しました。ALTの先生と一緒に英語の授業に参加しました。また、社会や数学や理科などに参加しました。東山中学校の英語の授業はとても特別だと思いました。生徒は自分の成績によって、クラスが分かれています。レベル別なので、先生が生徒の学力に合わせて教えます。

④日枝中学校

2014年1月14日から2月21日まで、日枝中学校で研修しました。授業の後、私は職員室で、電子辞書を使う等して日本語のテキストを読んだりノートに文字を書く練習をしました。給食時間は、用務職員や図書員と楽しく食事をしました。会話は日本語を積極的に使い、日本語が身に付くようになりました。

3. 帰国後の展望

この間、私は日本のALT制度を理解しました、とても良い方法と考えたので、私は論文を書いています。来年、中国の定期刊行物に載る予定です。今、中国の英語教育は改革の政策がたくさんあります。3年前、わたしの学校もレベル別教育の方法を使っていました、しかし中学校ではなかったので、私はこの方法を中国に紹介するつもりです。

私は2種類の部門、4つの学校で研修しましたので、同僚は100人以上ぐらいいます。日本人は仕事に本当に真剣です。朝から夜まで、とても忙しいです。しかし、だれも不満を言いません。私はいつも「頑張りましょう」、「頑張ってください」と言う言葉を聞きます。私も激励をもらいます。日本人はとても礼儀正しいです。毎日「ありがとうございます」、「すみません」、「失礼します」などをたくさん聞きます。私はぜひ中国の友達に伝えたいです。

私が研修した内容は、いずれも私の帰国後の日常的な仕事と密接に結びついたものであり、すぐにその成果を自分の業務に活用できると確信しています。また、日本の進んだ英語授業の方法を、モデル授業の形式を用いて、外国語学部教師に紹介したいと考えています。

海外戦略室は私の家のようです。私は市民の田中実さんの助けのもとに、いろいろな所へいきました、様々な伝統の祭りを体験しました、大変楽しかったです。一緒に研修する和耀曇さんにも、色々手伝ってもらいました。皆さんに心から感謝を申しあげます。大変お世話になりました。ありがとうございました！



田中さん（中央）、和さんと私

日本の農業を学んで

氏　　名　　和 耀雲
出　身　国　中華人民共和国
受入自治体　岐阜県高山市
研　修　先　高山市役所



1. 本事業に応募した動機

私は、中国西北部の雲南省麗江市で生まれました。麗江市は有名な国際観光都市で、800年の歴史がある古都です。平成14年に雲南省麗江市と高山市が友好都市提携を結んで以来、観光、教育、農業などの面において、高山市から様々な支援を受けました。日本の文化、特に高山市の農業研修と農業従事者に対する私の好奇心は強く、高山市の農業の進んだ取り組みや経験を学び、高原農業先進地の麗江市において、高山の農業の知識を普及したいと思いました。2013年に、友好都市の高山市に派遣していただいたことを光栄に思っています。

2. 研修の概要

(1) 全体研修

A 東京研修（2013年5月19日～2013年5月21日）

2013年5月19日、私は、平成25年度のLGOTPに参加する他の9名の中国人とともに東京に到着しました、そして5月21日までの3日間、日本総務省でCLAIRの開講式、研修プログラムの説明、日本自治体の紹介、日本語能力テスト、自治体の担当者との面談などのオリエンテーションを受けました、5月22日に新幹線を利用してJIAMに移動しました。

B JIAM研修（2013年5月22日～2013年6月20日）

滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所で約1か月間、世界9か国からの25人の研修員と共に生活しながら集合研修をしました。私たちは6つのクラスに分けられました。私は、日本語ができない5人の生徒が集まるクラスに入りました。様々な国の人々が集まっており、自分の国とは違う国のことについて知ることはとても興味深いことでした。毎日、日本語の授業やテストを受け、宿題をし、友達と一緒に食堂で食事をしました。また、京都へショッピングをするなど、忙しくて楽しい毎日でした。私の日本語の能力はかなり進歩しました。また、世界遺産の金閣寺などを見学し、茶道を体験することもできました。日本の文化を勉強することができ、とても楽しかったです。

(2) 専門研修

A 高山市地方行政概要研修（2013年7月から2014年1月）

6月20日、私たちは、受け入れ自治体の研修担当者と一緒に高山に到着しました。高山市の職員から温かい歓迎を受けました。その後、高山市の國島市長と面談させていただき、地元のテレビ局と新聞社から質問を受けました。最初の研修は、高山市役所海外戦略室で高山市の行政制度、施設、基本情報を中心に、一般行政研修を受けました。また、毎日、研修の時は、皆さんに礼儀正しくあいさつすることを心がけました。できるだけ礼儀正しくして、日本の皆さんに良い印象を与えることができるよう心がけ、職員の仕事も手伝いました。

B 農業研修（2013年7月～12月、2014年2月）

①高山市の農業行政に関する研修

私は、麗江市農業科学研究所「麗江市農業技術普及センター」で働いています。農業従事者としての私は、高山市の農業先進地現場での研修に深い興味を持っています。

7月22日、農務課の研修では、まず、飛騨地域で栽培されている作物や農業事務所の仕組みの概略を学び、そして農務課の皆さんの業務について勉強しました。そして、手紙を作成する、

コピーをする、資料を整理する、電話をとるなど、毎日、自分ができる限り、皆さんのお手伝いもしました。高山市の農業の新聞、地産地消推進会のFACEBOOKを読んで、毎日農業の最新の情報を勉強しました。皆さんにいろいろなことを教えてもらったりして、とてもアットホームな雰囲気で研修をしました。

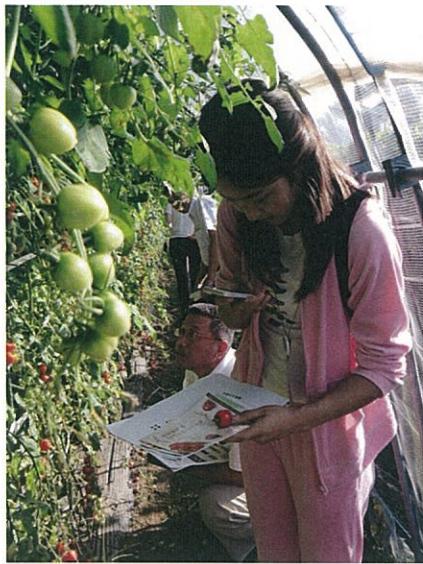
また、研修していた間に、高山市の農業の案内書を中国語に翻訳しました。農業現場などで研修したことは、日本語の報告書を作成して、皆さんに回覧しました。

②高山市の農業現場での研修

農業現場での研修で、視察へ訪問したところは、中野さん、山藏さん、橋場さん、加藤トマト農園さん、小屋垣内さん、平野さん、川尻ほうれん



市長や農政部の皆さんと
一緒にテレビに出演



トマトの農園を視察したとき

そう農園さん、和仁お米農園さん、若林すぐなかぼちや農園さん、高根高原地域ねぎ、そば、ほおづき、トウモロコシ農園、林メロンさん、飛騨もも、朝日町リンゴ、山ブドウ、樋口果樹園さん、上宝町ブルーベリー園、菌床しいたけ農園、飛騨キク農園、久々野飛騨牛飼育場、高根千町牧場、高山市公設地方卸売市場水産青果株式会社、市内の農産物直売所、飛騨エアパーク農業振興基地、JAひだトマト選果場などです。参加の研修会は、奥飛騨新しい農業見学会、飛騨地産地消特產品展示会、あきしまささげ品評会、先進地視察研修会、中山間農業研究所中間成果を検討会、農業研修生意見交換会、アブラエ研修会、飛騨牛親子見学会、JA飛騨食肉センター和牛枝肉勉強会、飛騨地域鳥獣被害対策フォーラムなどです。

農業現場での体験は、機械でほうれんそうを収穫、新就農者ハウス建設作業、漆垣内町花もち制作、農業用使用済み資材の回収などです。

このような貴重な研修機会をいただき、とてもうれしく思っています。感想もたくさんあります。

中国では、古くて小型の農業生産様式、伝統的な栽培技術、農家の生産コスト不足、化学農薬を使用した栽培、食の安全よりも収穫量を重視し、地域環境や農業農村の持つ多方面的機能をないがしろにしている面もあります。新型農業生産様式を普及する学校を設立すれば、農家も農業任事者と一緒に勉強に参加できるし、活動できると思います。中国でも日本のように、農業政策と農務振興における不足面を改善する必要があると思います。そして高山市のような野菜の水耕栽培、有機栽培、農業機械などの先進的な農業技術は、参考とすることができます。また、農薬の散布回数を減らすとともに、地域住民が一体となって地域環境の美化、昆虫類と動物の保護、農村地域の資源を保全するための共同活動などを行っていくことが大切だと思います。私が中国に戻ったら、高山で得た知識を麗江の農業事業に生かせればと思います。

3. 帰国後の展望

7か月が過ぎ、短い間でしたが、今まで経験できなかった数多くのことを体験することがき、忘れるることはできないでしょう。帰国後、新しいスタートが始まりますが、一生懸命に仕事をし、今後の生活を精一杯生きていきます。今回の研修は、必ず今後の仕事と生活に役立つと確信しています。また、今後は麗江と高山の友好交流のために、微力ながら力を尽くしたいと思います。

最後になりますが、私の研修を支えてくださいた CLAIR、高山の皆さん、海外戦略室と農政部の皆さんに心から感謝を申し上げます。更に、農政部長、農務課長、二村さん、山本さんと段さんに、家族のように長い間いろいろとお世話になりました。心から厚くお礼申し上げます。皆様のご健康や平安をお祈りいたします。高山、日本、ありがとうございました！



日本の総務省での研修

日本の教育現場から学んだこと

氏　　名　　ホージネイデ フレズ
出　身　国　　ブラジル連邦共和国
受入自治体　　愛知県豊橋市
研　修　先　　豊橋市役所学校教育課
　　　　　　　(豊橋市立岩田小学校)



1. 本事業に応募した動機

私の勤務するパラナ州教育局では、平成 22 年度より豊橋市から派遣される教員を受入れ、教育制度についての情報交換や日本から帰国したブラジル人児童の実態把握などを行っています。私も豊橋市の教員とともに帰国児童の面談やアンケートを行いましたが、ポルトガル語が不十分であったり、学習に遅れが生じるといったような帰国児童が抱えている問題を明らかにすることができました。そして、日本の教育制度とその制度の中でのブラジル人児童への対応を知ることで、帰国児童に対する指導をより効果的なものにできると思い、この事業に応募しました。

2. 研修の概要

(1) JIAM での研修

まず、他自治体の研修員とともに日本文化と日本語を学びました。この 1 か月間、1 日中日本語を学習したり、講義を聴いたり、旅行へ行ったりと興味深い経験ができましたが、日本語の知識が全くなかった私にとっては努力が必要であり、大変な期間でもありました。可能であれば、自治体研修で使う日本語（教育に関する日本語）を教えていただければ、より有益な研修になると思いました。

週末には、色々な国の研修員と意見交換ができ、とても参考になりました。また、CLAIR や JIAM のスタッフの皆様は常に私たちのことを気にかけてくださいり、母国との距離をなるべく感じさせないよう配慮してくださいました。

(2) 岩田小学校での研修

研修先の豊橋市立岩田小学校では、国際クラスの授業に参加し、児童たちの学習支援を行いました。また、ブラジル人児童にポルトガル語を教えたりもしました。

この研修の中で、日本の小学校とパラナ州の学校とが大きく異なることが分かりました。まず、学校の規律が自然と守られており、先生方も担当クラスをしっかりと管理しています。教科学習以外の活動の重視、生徒が行う掃

除、夏休みの宿題、給食の仕組み、時間厳守なども印象的でした。学校の建築構造も標準化されており、市内にある小学校がほとんど同じ構造で建てられています。ブラジルでは通う学校を自分で選ぶことができるので、住んでいる地区の学校に通うことにも驚きました。

また、岩田小学校以外の小中学校も訪問し、授業参加や進路説明会での講義、七夕や月見といった日本文化体験などを行いました。それぞれの学校ごとに小さな違いがあったので、非常に興味深い経験となりました。特に、2週間研修を受けた豊岡中学校では、授業参観だけでなく、国際学級の生徒たちの面談も実施することができ、生徒の抱えている問題を把握することができました。

(3) 外国人児童生徒と保護者について

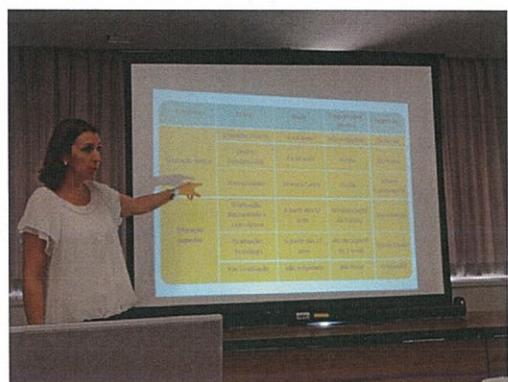
5か月間、実際に外国人児童生徒と学校生活を過ごしたことで、研修の目的である日本の学校の教育制度を理解することができたとともに、児童生徒への支援についても達成できたと思います。それと同時に、日本の学校規則や教師の考え方、低学年児童にも責任が求められることなどについては、児童や保護者の理解を得られにくいと感じました。日本の学校は、外国人児童生徒が学校生活に適応できるよう支援していますが、家庭からの抵抗があるため、児童生徒にも影響を及ぼしているように思います。例えば、先生方は授業の理解度や宿題など学習への取組みを大切にしていますが、家庭ではそれについての関心が低いような気がしました。

その点に関しては、学校と保護者のパイプ役となる外国人児童生徒相談員の役割が非常に大切だと思います。また、保護者に日本の教育制度について明確に説明することも必要だと感じました。説明会を開催したり、パンフレットを配布することは、親のサポートが子どもの学校生活に必要であることを意識させる手助けになると思います。

一方で、日本の学校側も外国人の児童生徒が異文化や習慣をもっていることを理解するのが難しいのではないかと感じました。外国人の児童生徒や保護者は、日本人とは生活習慣や価値観が異なるため、日本人とは違う視点で物事を見る目をもっています。そのため、先生方にも外国の文化を紹介し、



国際クラスの児童とゲーム



ブラジルの教育制度について、外国人児童生徒相談員を対象に講義

それぞれの国の考え方や日常生活、教育方法などを知っていただければ、教育にも活かせるのではないかと思いました。

（4）市役所での研修

学校以外にも、豊橋市教育委員会や多文化共生・国際課で研修を受けました。教育委員会は、組織の秩序が保たれており、それぞれの教育分野で連携が図られていると感じました。また、学校からの要望への考え方や、予算執行についても参考になる部分が多くありました。

多文化共生・国際課では、市内の外国人コミュニティに対する計画や、外国人が日本で暮らしていくための支援事業を行っています。教育分野以外でも、外国人市民に対して多くの取組みが行われていることに驚きました。文化や生活習慣が異なる外国人市民に対して、守らなければいけないルールや災害時の対応などを広めていくことは、必要不可欠な支援であると感じました。

3. 帰国後の展望



帰国後、豊橋市からパラナ州教育局へ派遣されている教員と活動

今回の研修で多くのことを学びましたが、特に「プレクラス」は非常に興味深く印象に残っています。プレクラスは、日本の学校での就学経験がなく、日本語が理解できない外国人児童が徐々に学校生活に慣れて行くことを目的として、学校生活に必要となる基本的な生活習慣や行動様式、必要最小限度の日本語を教えています。ブラジルでも、日本から帰国した児童が学校に慣れるには長い時間を必要とします。なぜなら、ブラジルに帰国する児童の多くは日本で生まれ育っており、ポルトガル語やブラジルの習慣を少ししか身につけていないからです。プレ

クラスのように、学校の規則等を学ぶための適応期間を設けることは、ブラジルでも実践してみたい取組みのひとつです。

ブラジルに帰国後は、こちらで得た情報や、豊橋市がブラジルに帰国した児童生徒たちの支援を行っていることをパラナ州教育局に伝えたいと思います。今後も研修員の派遣が続くのであれば、研修員に期待されている活動内容や、研修員が学校や児童生徒に対して行うことができる支援について、長い時間をかけて研修員と面談していくことで、この研修をさらに改善していくことができると思います。

また、私が帰国してから2週間ほど、豊橋からパラナ州へ派遣されている先生と一緒に活動する予定になっています。先生がパラナ州の教育システム

を知ることができるよう、できる限りの協力をするつもりでいますし、日本から帰国したブラジル人児童に対する支援活動について計画を立てたいと思っています。そして、これからも豊橋市とパラナ州の教育交流が続き、絆が深まるよう協力していきたいと思います。

最後になりましたが、半年間の有意義な期間を過ごし、教育関係者として、また個人的にも新しい発見と豊富な知識を得ることができました。日本という素晴らしい国で研修を受けることができ、心から感謝いたします。

“Doomo arigato gozaimashita! Sayonara!”
どうもありがとうございました。さようなら！

京都での貴重な研修体験を日中交流のために生かす

氏　　名　　劉　寧
出　身　国　　中華人民共和国
受入自治体　　京都府
研　修　先　　国際課



1. 本事業に応募した動機

日本へ来る前に中国の西安工業大学外国語学院で日本語教師をしてきた。日本語教育に携わっているうちに、まず多くの学生に日本語及び日本文化について一定の理解をしてもらうことができ、かなり満足を感じている一方、日本に行ったことがないから、自分自身が本やネットで学んできた知識が説得力に欠けていて、何か不足する感じもしていた。やはり日本に行って、自分の目で日本を見て、身をもって日本という国を感じて、日本社会や文化をより一層理解し、また日本語という言語環境で、自分の日本語能力そして日本語教育のレベルを向上させ、とにかく、多方面から日本についての理解を深めたいと思った。これまで仕事の間に、日中両国の友好交流そして両国民の相互理解を目指して、多くの優れた学生を育成したいと思うのと同時に教師としての責任の重さも痛感している。しかし、この責任の重さこそ我々日中両国の架け橋である日本語教師の将来に向けての原動力でもあると認識している。

2. 研修の概要

(1) 日本語の研修

5月19日に来日して、まずは東京で日本の地方自治体制度を研修したり、東京都庁や国会議事堂を見学したりという3日間のオリエンテーションを受けた。そのあとの1か月間は、滋賀県の唐崎にある全国市町村国際文化研修所（JIAM）で日本語研修をした。そこで、今回の世界中からの研修員と一緒に日本語を勉強したり、生活したり、ほかに彦根城、日野商人探訪、京都の定番の名所、京都市市民防災センターを見学したりして、非常に楽しい日々を過ごした。JIAMで日本語の先生たちはまじめで親切に教えてくださったので、日本語能力もかなりアップされてきて、大変勉強になったと思う。

(2) 自治体研修

6月20日から京都府の国際課で研修を始めた。最初は京都府庁の国際課、海外経済課、観光連盟、精華町でそれぞれ主な仕事内容について教えてもらって、レポートをまとめて提出した。これを通して日本の行政機構はどうい

うふうに仕事を進めるのか、日中交流においてどれだけの努力をしているのかなどがだいたい分かるようになった。その後、日本三大祭りの一つと言われている祇園祭、京都の三大祭りの一つである時代祭りを研修した。この研修によって、歴史悠久かつ日本伝統文化がうまく保存されている京都に対してもっと深い認識ができた。また、日本三景の一つである天橋立、伊根町の舟屋、美山町の茅葺の民家、木津川市、京田辺市のような京都府内の名所を視察し、さらに中国のブログで発信し、中国人に京都府のいろんな魅力が分かるようにPRした。10月になってから、京都府立大学で受講し始めた。「京都の歴史」、「日本の文学と文化」などの講義を受け、京都さらに日本の歴史や文化について理解を深めることができた。

京都府と陝西省は友好都市で、各分野においての交流が盛んに行われている。そのため、京都府の研修員としての仕事は両府省間の友好交流にかかる仕事、例えばメール、手紙、各種イベントの中訳や和訳という翻訳である。中国では日本語の教師をやっていたが、このようにたくさんのものを翻訳したりするという仕事はしたことがない。だから、翻訳する際、最初は適切な言葉がなかなかピンとこないことでさんざん悩んだこともある。そうした時には、初めは辞書を調べながら、言葉を推敲し、ふさわしい言葉が見つかるまで努力していた。しばらくして翻訳する量が増えるにつれて、だんだん翻訳の仕事に慣れてきただけでなく、自分の日本語能力もたいへん磨かれたと思う。

また、平成25年はちょうど京都府と陝西省の友好提携の30周年にあたり、京都府は30周年を記念するために陝西省へ訪問団を派遣した。陝西省に行く前に訪問がうまくいくように京都府は陝西省とよく連絡し、いろんな準備活動をした。これらの仕事によって、日本人のまじめな仕事ぶりや細かい配慮がうかがわれ、本当に感心させられた。わたしも訪問団の随員の一人として陝西省に戻って、中国語で事務を調整する必要のある時手伝ったり、京都府答礼宴の時国際課長の通訳をしたりして、少しでも自分の力を尽くしていた。

3. 帰国後の展望

京都は日本の伝統文化が非常によく保存されている都市で、街中は落ち着いた雰囲気があふれると同時に、近代感も欠けていない。京都に来てから、この都市の古さと近代感の完璧な結びつきをしみじみ感じている。京都で、日本の伝統文化、きれいな自然環境、秋の風物詩である紅葉を満喫し、日本人と付き合うことを通して日本人の礼儀正しさや優しさがわかり、自分の一生で、貴重でいい経験になると思う。帰



研修風景

国後も、引き続き大学で日本語教師の仕事をするので、京都の研修で学んだことを研究し続け、体験した日本の行事や文化活動の様子を、より具体的に学生に伝えたいと思う。学生に日本の歴史や文化魅力などを伝えると共に、日本と中国、京都府と陝西省の友好交流のために自分なりの力を尽くしたいと考える。京都府と陝西省の交流の架け橋となり、多くの陝西省の人たちが京都府を訪れるようにしたい。また、京都市での貴重な経験を生かして観光や教育の分野で努力し、中国と日本の共同発展を推進するために貢献したいと思う。

最後に、大変お世話になりました CLAIR、JIAM、京都府国際課並びに関係者の皆様のおかげで日本で充実した楽しい生活と体験ができ、この場を借りて深く感謝の意を申し上げたいと思う。

鳥取県での研修

氏　　名　　金 春蘭
出　身　国　中華人民共和国
受入自治体　鳥取県
研　修　先　鳥取県庁



1. 本事業に応募した動機

私は吉林省龍井市外事弁公室で働いています。仕事の内容は主に国際交流の推進、龍井市への外資誘致に関する業務です。私は大学在籍中に国際経済と貿易について勉強しました。学校で学んだ知識を活かせる仕事をしたいと考え、現在の仕事を選びました。

龍井市は北朝鮮と接しており、北朝鮮との交流が盛んですが、北朝鮮から投資を受け入れることは難しいのも事実です。龍井市には朝鮮族が多く生活しており、毎年、韓国から多くの観光客が訪れます。韓国企業の投資もありますが、規模的にはまだまだこれからです。

今回、鳥取県での研修を通じて、日本の進んだ経済政策や宣伝戦略を学びたいと考えておりました。龍井市のPR活動の参考とするため日本の優れた宣伝戦略を学び、より多くの方に龍井市の良い点を理解していただきたくとともに、日本を含む多くの地域から投資を呼び込み、龍井市の発展に貢献したいと考え、本事業に応募しました。

2. 研修の概要

5月22日から1か月間、全国市町村国際文化研修所で日本語の研修を受け、6月21日から鳥取県で研修を始めました。これまで、鳥取県の文化観光局国際観光推進課、市場開拓局市場開拓課、商工労働部通商物流室及び鳥取市経済観光部で研修を行いました。

(1) 市場開拓課での研修

鳥取県梨の新品種のブランド化のため、東京銀座で開催された鳥取県新品種「新甘泉」と「なつひめ」の大試食会イベントを見学しました。また、食



オリエンテーション（東京）での
各国研修生との記念撮影の様子

のみやこ鳥取県特産品コンクール表彰式に参加して、鳥取県産の「砂の丘」、「黒らっきょうカレージャン」などの加工食品、さらに県産の農林水産品の特徴を活かした加工食品のPRと、新商品の販路開拓や販売力を強化する仕組みを学びました。私が住んでいる龍井市にも全国的に有名な梨があるため、今後は同じように梨などの特産品の宣伝を通じて地元のPRを積極的に行い、より多くの人に私の故郷に来ていただきたいと考えております。

（2）国際観光推進課での研修

鳥取県国際観光推進課では、外国人観光客誘致など国際観光の推進策について研修を受けました。具体的には、海外における鳥取県の認知度を高めるために鳥取県で開かれるスポーツイベントにメディアを招請し鳥取をPRする記事を書いてもらったり、旅行会社と協力して鳥取県の観光地の宣伝や旅行商品の造成を依頼したり、2次交通が発達していない地域において海外観光客が不便なく観光できるように移動手段を充実させる施策等です。鳥取市では3時間以内に自由に観光ができる外国人観光客向けの1000円タクシーが、米子ーソウル便が運行する米子空港では観光地へ便利に移動できる空港リムジンバスが運行していました。また、外国人観光客の旅費負担を減らすためにパスポートで入場料が割引される優遇制度も実施していました。国際観光推進課ではそのほかにも、海外誘客促進事業として様々工夫をしていました。

10月には米子で開催されたエコツーリズム国際大会に参加しました。エコツーリズムとは自然環境を損なわない持続可能な観光のひとつとして注目されている考え方です。大会では専門家や行政の関係者が集まり、以前のようなショッピングを楽しむ旅行より景色がきれいなところを旅行する人が増えている点等を発表していました。鳥取にはこのような観光客を満足させる自然、温泉等の観光資源が豊富にあることから、今後、エコツーリズムの考え方沿った観光客誘致策等を実施していくようす。

（3）商工労働部通商物流室での研修

商工労働部通商物流室では、海外における県産品の販路開拓拠点の整備や県産品輸出手続支援など海外販路支援策を実施しています。具体的には、海外に県産品販売拠点を整備する県内企業に対して補助金を出したり、国際貿易の知識が十分でない県内企業の貿易手続きを代行する企業を支援する等



エコツーリズム
国際大会 2013 in 鳥取

の施策を実施していました。

また、鳥取県では県内西部に位置する重要港湾境港の利用促進を目的として、境港定期航路を利用する荷主に対して輸送経費の一部を助成する等の支援策を実施しています。境港周辺の自治体が運営費を支援する境港貿易振興会では、境港に就航する国際定期航路の輸出入の促進及び貨物誘致を目的として、荷主企業や船社等への境港利用促進活動に取り組んでいます。鳥取県では、この境港貿易振興会と連携して、境港利用促進のための様々な施策を実施していました。

11月には、鳥取県の推進する施策や企業立地環境をPRし、鳥取県内への企業進出及び県内企業との連携を促進するために、名古屋で「企業立地トップセミナー」が開催されました。期間中は、より多くの企業に鳥取のことを知ってもらうために鳥取特産品で作られた色々な料理を振る舞っていました。また、鳥取県名古屋代表部では企業トップセミナーの開催に合わせて、多くのビジネスマンが利用する地下鉄車両に広告を掲出し、鳥取県の環境をPRしていました。

(4) 鳥取市の経済観光部経済・雇用戦略課での研修

鳥取市経済・雇用戦略課では市民が安心して暮らしながら市の持続的な発展を進めていくために、新たな雇用の場を市内に確保することを目標に掲げて、今後成長が見込まれる産業の振興や支援、雇用創造に取り組んでいました。市民、事業者、経済団体、大学、行政等が連携して、市内の地域資源である特産品や伝統工芸品、優れた技術による製品などのブランド化、高付加価値化に取り組んでいました。また、戦略的な情報発信や販路拡大・開拓に向けた施策も推進していました。

例えば、市内で製造されるLED照明製品の導入促進を図ることによって、市内のLED照明関連産業の活性化に繋げたり、中心市街地の活性化を目的として、空き店舗の解消や新たな起業家を生み出す取り組みを実施していました。他にも鳥取市の特産品・製品やサービス等を、インターネットを活用し広く情報発信し、鳥取市及び鳥取市の特産品のイメージアップやブランド化を図るとともに、鳥取市独自のインターネットショップも設立していました。

3. 帰国後の展望

中国に帰って、鳥取県で学んだことを活かして、地元の発展と繁栄に寄与



境港市は「ゲゲゲの鬼太郎」の作者水木しげる氏の故郷としても有名

したいと思います。また、鳥取県の長所、素晴らしいところを故郷の人々に紹介し、より多くの人に鳥取のことを知ってもらいたいと思います。そして、鳥取県と吉林省、延辺州間の架け橋になって、経済交流、文化交流等に貢献したいと思います。日本での 10 か月はとても早く過ぎました。来日した当初は分からぬことや慣れないことが多く、皆様にご迷惑をおかけしましたが、本当に親切にしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のおかげで楽しく研修することができました。皆様と一緒に過ごしたこの 10 か月は私にとって大切な思い出になると思います。最後に今回お世話になった皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

島根県での地域医療研修

氏　　名　　馬　玲
出　身　国　中華人民共和国
受入自治体　島根県
研　修　先　健康福祉部



1. 本事業に応募した動機

時代のますますの発展にしたがって、高齢化問題が進み、高齢者をどのように看護するかなど、将来にむけて至急解決すべき課題の1つになっています。今回の研修では、高齢化対策をはじめとして、様々な日本の医療を学び、中国へ帰ってから自分の病院、国のために尽力したいと思い応募しました。

2. はじめに

私は中国の寧夏からきました。寧夏医科大学総合病院の対外連絡部に勤めています。主な仕事は、児童予防接種の予約です。7月8日から島根県健康福祉部医療政策課で今回の研修を始めました。いろいろな病院や地域医療施設を見学しました。8月からは、島根県立こころの医療センターで各病棟の研修、訪問看護について勉強しました。9月からは島根県立中央病院で研修をしました。そこでは、地域医療連携室で看護師と社会福祉士とともに退院調整についての研修をしました。そして、10、11月は雲南保健所で最後の研修として、様々な地域医療、保健福祉サービスに関する事を勉強しました。

私の出身地である、寧夏回族自治区と島根県は1993年に友好都市となり、平成25年でちょうど20年になります。今回私は、自治区の研修員として勉強することができ、とても嬉しく思います。毎回の研修は充実しており、時間が経つのがとても早く感じました。

3. 研修の概要

(1) 全体の研修

私は5月19日に東京にきました。総務省で3日間の研修を受け、今回の研修についての説明会、日本語レベルチェックテスト、しまね国際センターの担当者と顔合わせをしました。

5月22日から約1か月半、JIAM(全国市町村国際文化研修所)で日本語を勉強しました。大学の頃に少し日本語を勉強したことがありましたが、改めて学ぶと覚えることが多く、とても苦労しましたがとても楽しい日々でした。この1か月半、私は一生懸命日本語を勉強したので、順調にカリキュラムを修了しました。

この研修中には、他の研修員と交流を深め、毎週末には CLAIR 主催で行われる日本人の生活体験に参加して、日本料理を食べたり、和室で茶道を体験しました。他にも、京都市市民防災センターでの防災訓練への参加、日本の地方自治や日本における高齢化と社会保障制度に関する講義も受けました。そういう活動以外にも、休みの日には友達と大阪の海遊館や心斎橋、奈良の東大寺、神戸の異人館や神戸港へ行きました。とても楽しい時間を過ごし、そこで感じた日本の文化、歴史、生活はとても深く印象に残っています。

(2) 島根県医療政策課での研修

①島根県の高齢化問題について

現在日本は世界で最も高齢化が進んでいる国です。そして、その中でも島根県は特に高齢化が進んでいる都道府県のひとつです。今後もますます高齢化が進んでいく中で、在宅医療の充実、地域保健行政の仕組みの見直しなど多くの課題に様々な視点から取り組みをしている島根県の行政を学びました。

②多磨全生園への訪問

東京にある多磨全生園へ訪問した際には、元ハンセン病の患者さんに会いました。現在、ハンセン病にかかる日本人はほとんどいません。また、国もハンセン病患者の方々の名誉回復のための取り組みや社会復帰、生活支援など様々な施策を行っています。

③隠岐の島での研修

隠岐の島の研修では、老健・特養施設(隠岐共生学園)の見学や隠岐病院、診療所の観察を行いました。老健・特養施設には初めて行ったので、とても新鮮でした。施設では職員と高齢者が交流したり、踊ったりしている様子を見て、とても感動しました。隠岐病院は、診療室の医師専用のディスプレーなど、設備がしっかりと整っていましたし、屋上のヘリポートを活用して Dr ヘリが運行、24 時間体制での救急診療など、地域に密着した病院であると思いました。

④その他

地域医療支援センターでは多機能患者シミュレーターを用いて脈拍、呼吸、血圧などを測定する先進的な看護の実践的トレーニングを行っていました。

島根県立大学、石見高等看護学院では、看護体験や介護実習をしました。



石見高等看護学院の観察

(3) 県立こころの医療センターでの研修

こころの医療センターには精神科、神経

内科、心療内科があります。各病棟での研修を行い、様々な看護技術を学びました。例えば、患者の身の回りの看護、褥瘡の予防とケア、薬の管理、嚥

下体操です。また、看護計画の実施や評価計画の修正、看護過程が電子カルテで展開されています。患者の情報が詳細に入力でき、情報量が豊富で、情報が必要な場所に連動する、とても便利なシステムです。デイケアでは作業療法士が患者の趣味に合わせて、体操したり歌ったりして作業療法を進めていました。

(4) 島根県立中央病院での研修

ここでは、主に地域医療連携室で看護師と社会福祉士と退院調整についての研修をしました。また病棟では、退院前の合同カンファレンスに参加しました。会議の目的は、患者が退院した後も安心して生活できるように関係者と情報交換し、地域との連携を図ることです。病院側と訪問看護師、デイサービス、保健所など多くの人が集まって、患者の病気の経過、今後予測される注意点を確認します。その他にも、退院後の療養生活に対する支援内容、留意点、例えば福祉用具や訪問看護、デイサービスなどの利用について、様々な問題が解決出来るよう話し合いが進められます。



島根県立中央病院で

(5) 雲南保健所での研修

最後の研修地、雲南保健所では高齢者対策や地域医療について学びました。雲南圏域は高齢化が進んでいる地域であり、様々な対策がされています。

高齢者対策については、日本の介護保険制度について学び、雲南市や飯南町における介護予防事業について経験しました。高齢化が進む中で、いかに元気な日々を過ごすかに着目し、その人の状態に応じた取り組みが行われていました。特定健診結果報告会やにこにこ健康教室、はつらつデイサービスなどに参加して、栄養や運動、歯の健康などの日常生活での意識も大切であると感じました。それ以外にも、まめなウォーカー交流会、認知症予防教室、難病サロンなどの事業や集いに参加しました。また難病の方や高齢者の方の家庭訪問などを通して多くの事を学びました。



飯南町まめな塾

雲南市立病院では、患者会交流会や人間ドック、回復期病棟研修など地域医療を支える現場の状況や熱意を感じることが出来ました。

4. 帰国後の展望

今回の研修では、いろいろな病院や地域医療サービスの場での研修を行い、

日本の医療政策や高齢化対策、介護保険制度、先進技術を学びました。帰国した後は、自分の病院で今回の研修で学んだことを紹介したいと思います。そして将来、日本で得た知識、技術を活用して、自国の繁栄に貢献するとともに、中国と日本の交友関係の増進に寄与したいと思います。

5. 終わりに

島根県は自然が豊かで、風景も美しく、有名な観光地も多くあるとても素敵な場所です。毎月の月例会では、安来節の踊り体験や足立美術館の見学、そば打ち体験をしました。その他にも広島へ研修旅行に行きました。休みの日は、松江市と出雲市の美しい観光地とお祭りにも行きました。松江城、出雲大社、小泉八雲記念館、花火大会、どれもとても素敵で思い出に残っています。

今回の研修では、多くの日本文化に触ることができ、多くの医療機関で学び、また、日本の人々は親切だったため、とても良い環境で研修することができました。私の将来に大きな役割を果たす、多くの体験が出来たので、本当に充実した研修でした。

最後に、今回の研修でお世話になった、CLAIRとJIAMの皆様、島根県文化国際課、しまね国際センター、島根県医療政策課、県立こころの医療センター、県立中央病院、雲南保健所の皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

楽しくて、豊かな山口県の研修

氏　　名　　亓 秀梅
出　身　国　中華人民共和国
受入自治体　山口県
研　修　先　山口県立総合医療センター



1. 本事業に応募した動機

私は2007年から山東省立病院で働いています。胸部外科、心臓外科ICU、PICUの業務経験を持っています。2013年4月に小児科の予備看護師長になりました。現在、実務上において、いくつかの問題点があります。例えば、看護師の育成と生涯支援、業務の効率化、看護サービス品質向上、感染予防対策、患者に対する安全管理、看護研究支援等です。日本の看護管理体制は成熟しているので、いろいろな知識と理念を学びたいと思いました。日本の文化を体験し、先進的な看護管理の理念と技術を学習し、山東省と山口県の友好交流のために努力し貢献したいと考えました。

2. 研修概要

(1) 東京及び全国市町村国際文化研修所 (JIAM) 研修

5月19日、成田国際空港に到着しました。それから、総務省や東京都庁、国會議事堂を見学し日本の国家体制を勉強しました。5月22日、他の研修生と一緒に滋賀県のJIAMに到着し、日本語の研修が始まりました。語学研修により日本語のレベルを高めることができました。また研修期間中には、金閣寺や二条城などの見学、京都防災センターで地震・台風・防火訓練も体験することができました。JIAM所内での茶道研修、研修員達との交流、琵琶湖周りの散策、山桃の木の下の読書、そして最後の発表会は、今でも忘れない出来事です。

(2) 山口県立総合医療センターで看護研修

①看護部門の研修

看護部門の研修テーマは、病院の看護管理体制および実践方法です。医療センターの看護部理念は「利用者の立場で、安全で質の高い看護サービスを提供すること」です。理念と一致する看護部目標を毎年作り、病棟目標の実現を支援しています。医療センターの看護部は、看護部長1人、副看護部長3人、看護師長17人によって構成され、副部長は業務、総務、教育と別々に担当する仕組みです。看護部の機能を果たすために業務基準、看護安全、看護



医療センターの方々と
学会参加

教育等 10 の委員会を設置し、担当者を決めて役割を明確にしています。定例会議では現場で生じる問題を有効的に解決し、看護サービスの品質を絶え間なく向上し続けるように活動しています。

②病棟看護管理実践の研修

中国ではチーム医療という概念はなく、チームとして活動することはありません。日本では医師、看護師、栄養士、薬剤師などが患者の問題を分析し、協力を惜しまず、最も適切な計画と一緒に作成し、問題を解決します。チーム活動の効果は大きいと思います。

また、病棟の固定チームによる看護方式は、患者に一番有効な治療と看護を提供し、一人の患者の入院から退院まで、チームの一貫した方法によって実現することができます。この方式は看護師の個人差をお互いがカバーし、団結意識の養成や個人の成長、そして、現在の問題状況も改善する等、チームの目標を達成することも可能です。そして山東省立病院と違い、看護管理の役割を果たすために、各病棟に 2 名の主任（補佐看護師長）を配置しています。主任の配置は、看護師長の補佐と多様な業務をチームワークでスムーズに進めることにも役に立ちます。

私は新生児科病棟で、看護師長の説明を受け、病棟管理の内容と各項目の細則を学びました。例えば、看護師長の勤務管理、物品管理、新人看護師の教育、看護師のキャリア支援、安全確保、リスク管理、管理情報伝達、新生児の発達ケア、面接と退院支援等です。

また、救命救急センターはとても効率の良いシステムで動いていました。多忙ですが、混乱はありません。これは高度な医療機器や診療材料の 5 S 管理（整理・整頓・清掃・清潔・躰）が、職員教育及びチームメンバーの協力によるところが大きいと感じました。特別に緊急の現場における「看護技術と流れのデモンストレーション」という実践の教育方法は効果が高いと思います。



新人看護師研修
に参加

③医療安全推進室および地域医療連携室の研修

医療安全対策に対する取り組みは山東省立病院と大きく違います。医療センターでは、医療安全を推進するために、医療安全推進室を設置し、専任の看護師長が在籍しています。各部門からヒヤリハットを報告し、専任の看護師長が分析を行います。医療安全推進委員会で協議された後に、各部署にフィードバックするシステムが構築されています。完全な基準と標準化されたプロセスをもとに、職員一人一人が仕事を遂行することにより、医療事故発生が最大限に予防されています。実践されている確認方法や危険予知訓練、リスク管理などは新しく効果的です。是非活用したいと思います。

地域医療連携室では、地域の医療機関が連携し、地域完結型医療が実現できるよう努力しています。中核病院、専門病院、診療所、介護施設、リハビリセンター等

が一体となって、地域ぐるみで患者中心の医療の実現を目指しています。

④看護師人材育成の研修

山東省立病院の看護師育成体制と医療センターを比較すると、医療センターは看護師の継続教育体制がシステム化されていると思います。クリニカルラダーは看護師の一人一人が自己能力開発を促すための有効な手段です。看護師は、自らの意欲で自分なりの道を選ぶことができ、様々な方向に成長していくことが出来ます。職位別、成長過程に添った目標と養成計画の導入は、看護師たちの理想に少しずつ近づくことが出来ます。評価は自己評価と他人評価の両面から、客観的にその効果を反映することができるのもこの体制の良いところだと思います。医療センターには、色々な分野の認定看護師が11名在籍しています。看護技術、教育、管理、研究に対し、実践しています。日本の認定看護師は5年で更新ですが、中国では更新制度はありません。認定看護師の更新制度は、知識・技術の向上には必要なことだと感じました。新人看護師教育は、臨床実践能力の構造を基礎とし、卒後臨床研修が努力義務化されています。院内研修と看護協会等を活用した院外研修は良い教育手段だと思います。また、学会参加で最新の看護を学び、看護の質の向上を図っています。

⑤県外研修

10月17日、18日に、京都府で開催された全国自治体病院学会に参加しました。いろいろな病院に関する経営、管理、技術について各専門領域の研究も新鮮で、参考になるものが多くありました。中国の看護研究は結果を重視していましたが、日本の看護研究は研究方法の理論と実践方法の結びつきが高いと感じました。

3. 帰国後の展望

帰国後、私は以下のような課題に取り組んで行こうと考えています。

(1) 目標管理を病院看護管理システムに導入する。

日本で学んだ目標管理の知識を活用し、目標管理の考え方と評価は看護サービス品質の向上、看護の業務改善、看護師の職歴、能力によって看護師育成等の面で応用していきます。その結果、集団と個人の目標は一層明確化できるようになると思います。

(2) 日本で学んだ医療安全管理を活用する。

医療安全の考え方を基盤に活用し、自分の部署の中で審査し、潜在するリスクを排除するように改善します。ヒヤリハットを正しく分析し、可能な限り看護の安全性を向上させていきます。

(3) 看護業務の効率化を図る。

自部署で5S管理を活用し、業務の流れを改善し、看護師の時間管理能力を高め、看護業務の効率化を図ろうと思います。

(4) 新たな看護チームの編成と紙上発表をする。

今回、習得した理念や知識を自施設で展開するために、新たな看護チームを編成し、実践の結果を紙上発表する予定です。この間、看護師の管理能力を高めることができるように支援していきます。

もうすぐ帰国しますが、日本の美しさ、やさしさ、そして食べ物のおいしさは忘れられません。歴史ある京都、静かな美しい風景の奈良、賑やかな福岡、綺麗な広島に行き、想い出を多く作ることができました。山口県に滞在して、私が忘れられないのは、柳井のかわいい金魚提灯、防府夏祭りのきらびやかな花火や綺麗な浴衣、医療センターの看護師たちが参加した、冬の天満宮の女神輿です。これらのいろいろな体験は一生の貴重な思い出です。そして、この7か月は、私の人生にとって大切な宝物です。

最後に、自治体国際化協会、山口県庁の皆様にお礼を申し上げます。山口県国際課と山口県立総合医療センターの皆様、本当に感謝しております。研修と生活面で、多くのご指導とご援助をいただき、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



広島県宮島の
大鳥居前にて

施設野菜生産の研修

氏　　名　　アサー チャピガス バーティング
出　身　国　　フィリピン共和国
受入自治体　　高知県
研　修　先　　高知県農業技術センター



1. 本事業に応募した動機

フィリピンのベンゲット州は農業地域で、主要産業は農業である。ベンゲット州政府は農業開発を優先課題に位置付けている。このような環境の中、私は日本でどのようにして野菜生産が行われているかを知りたかった。私は、実地経験を通じて野菜生産についてより多くの知識を獲得し、学ぶことを望んだ。私の知る日本は、農地面積が限られているにもかかわらず、質の良い野菜を大量に生産している。グローバル市場が、ベンゲット州の野菜産業を脅かしている。われわれは、高品質の野菜生産が市場で競争力をもつことを目指した。農業者には、質の高い安全な野菜を生産する新技術を指導すべきである。今回の研修は、私が地元の機関で農業のプロジェクトやプログラムを実施する農業拡張労働者としての能力を高めるのに大いに役立つだろう。

2. 研修の概要

施設野菜生産に関する研修は実を結び、私は多くを学んだ。私が出会った作物は、パプリカ、ピーマン、ナスとキュウリであった。野菜生産で先ず一番重要なのは、育苗である。健康で勢いのある苗が優れた収穫を保証するため、育苗は品質の出発点である。播種前に、選種を行わなければならない。どのような品種を植えるかに当たっては、特に気候への適合性、病気に対する抵抗力や勢いの良さを検討すべきである。播種に用いられた培地は木質の堆肥であった。播種前に、木質の堆肥を洗って、苗に良くない化学物質のフェノール類を洗い流す必要がある。播種は、苗トレーの上に均一の間隔で行う（写真1）。1週間後には、もっと根を張ることができるように苗を鉢に替え替える。植え替えには、平均的な高さの苗を選び、高すぎるものや低すぎるものは捨てられる。畑への植え替えは、苗が40日以上になってから行う。



写真1：ナスの播種

キュウリのように病気への抵抗力の強い野菜の生産は、接ぎ木で行われた。私は、カボチャの台木を使ってキュウリの接ぎ木を行う機会を得た。接ぎ木の後には、成長

するキュウリの整枝・誘引技術を教えた。写真2は、最も簡単なキュウリの接ぎ木法を示している。接ぎ木は、播種から1週間後に行われた。接ぎ木された苗は鉢に植え、15日ほどしてから畑に植え替える。植え替えの後で、1節から5節まで、脇芽と雄花を取り除いた。18節で主枝を切って、成長すべく勢いのよい芽が3つ選ばれた。その他の脇芽は、すべて摘まなければならない。

パプリカ生産では、育苗管理の研修を受けた。苗を培地に植え替えた。いちばん良い苗の選別は、背の一番高いものと低いもの、それに病害にやられた苗を捨てることによって行われる。定植前に、苗にハダニ対策の処理が施された。植えてから数日後に整枝・誘引が行われた（写真3）。主枝を2本だけ残して行い、ほかの枝はすべて取り去られた。主枝の2節目までにできた果実も取り除かれた。これは、根の張りを良くし、作物の成長を増進するためである。収穫は、3節目から始まる。整枝・誘引は、植物の生長につれて絶えず行われる。定植前の温室の準備が興味深かった。定植前に、土壤処理、肥料の散布、土地の準備などの一連の作業が行われた。苗を植える前の温室内の土に病気があってはならない。害虫予防のために、温室内では黄色の害虫捕獲粘着テープと害虫駆除剤が利用されていた。

収穫と収穫後の慣行もきわめて興味深かった。日本の農業は野菜作物の品質に高い基準を設けており、梱包とマーケティングに関して優れた戦略がある。

3. 帰国後の展望

私は、この研修の第1部を終えたばかりである。第2部は、ここ日本での研修で明らかになったことの応用法に関する計画の実施となろう。帰国したら学んだことに従い、野菜生産技術のデモンストレーションを試みるつもりである。この試みは、農業者による伝統的な農業のやり方と日本の農業技術の比較研究になるだろう。先ずは、農場外での技術のデモンストレーションの試みとともに、キュウリやパプリカの接ぎ木と整枝・誘引など、一連のいくつかの研修をスタートするつもりである。その後は、農業者の畑でデモンストレーションを試み、農業者が彼らなりのやり方で、日本の農



写真2：キュウリの接ぎ木



写真3：パプリカの剪定

業技術の偉大さを観察するようにしたい。様々な市町村において、農業拡張労働者の関わる実践的研修も実施するつもりである。

高知市のインフラ整備について

氏　　名　　モハマド アリ ラーマディ
出　身　国　　インドネシア共和国
受入自治体　　高知県高知市
研　修　先　　総務課



1. 本事業に応募した動機

私は、高知市と姉妹都市を結んでいるインドネシアのスラバヤ市では、インフラの開発計画を担当している部署で働いています。

2013年度自治体職員協力交流研修事業に応募した動機は幾つかあります。それは、この研修プログラムに参加できたら、日本語・日本文化を学ぶチャンスの他に、日本の方はもちろんですが、他国からの研修員と友達になれるチャンスだと思います。他国出身の友達ができることによって、特に仕事に関する知識が深くなると思います。

本事業で日本文化を体験学ぶチャンスを2か月与えていただきました。その間、日本の文化を体験できました。長い期間に日本人と交流できたのは私にとって、新しい経験です。

2. 研修の概要

高知市では、様々なことを学ぶことができました。専門研修に関しては以下のとおりです。

(1) 情報技術管理

高知市は1961年に給与計算や税等の賦課計算において利用を開始しました。年々利用したい部署が増加し、また10年前より情報技術が多様化・複雑化してきたことから、民間業者への委託に切り替えつつあります。現在、民間業者に委託しながらも情報政策課が管理をしています。しかし、水道局は水道局計画課、消防局は消防局総務課、教育委員会及び市立学校は教育政策課が主管部署となります。

高知市では、情報管理に関しては市長が最高責任者になります。しかし、各課では課長が責任者となり、課内のパソコンやインターネット等の利用を管理するのは、指名されたリーダーです。各パソコンは利用者のニーズに合わせるため、異なる場合もあります。高知市はウィルス対策が非常に厳しいです。ウィルスではなくても、ウィルスと判断し警告されれば、リーダーをつうじて、情報管理課に報告書を出さなければなりません。

(2) 公共交通管理

高知市では公共交通がいくつあります。それは、電車、路面電車、バスとタクシーです。電車は他の市と結ぶための交通です。路面電車は市内中心から東西南北へ走っています。高知市にあるバスはほとんどの地区を通ります。2006年の法律で公共交通の一つになったタクシーは、山地に在住中市民がまちの中心や最寄りの駅もしくはバス停へ行くのに利用できるようになりました。



(3) 防災対策

高知市消防局は1948年に設置し、10年後レスキュー隊もできました。現在、消防局には351人の職員と808の消防団員に支えられています。1本部、3消防署と7出張所がありますが、今後は4つ消防署と4つの出張所で高知市に起こる火災・救急事態及び必要な救助の対応ができる8分エリアを配置することが課題です。遅くとも消防士が8分以内に現場に着く時間ともされます。救急や救助の活動もしていますので、各署に救急車やレスキュー車も設置されています。



高知市消防局には天気を含む災害対策に、情報指令室から高知市全体の様子を見るために、様々な機会が整備されています。対応できなければ、高知県及び他自治体に無線で情報通信します。また、必要であれば、ガス会社や電機会社・病院・警察等の他機関とも連絡をとります。

(4) ゴミ分別

高知市では、可燃ゴミは週に2回収集されます。出す時に、匂いの漏れを防ぐためでもあり、ごみ袋に入れて、出さなければなりません。それによって、職員もより簡単に収集できます。プラスチックゴミは週に1回で、きれいにしてから出すのが普通です。不燃物、資源物や家電は1か月1回収集されます。しかし、家電については、テレビや携帯電話等、特別な処分方法が必要な家電の場合は、業者に有料で頼まなければなりません。

専門研修の他、日本文化や現地の習慣も学ぶことができました。

高知市では、市民の親切さ、そして、礼儀正しさをとても感じました。日本人はいつも忙しいというイメージがあります。しかし、わからない時や道を聞きたい時に「あの、すみません」と私の一言を聞いて、対応してくれて、高知市民の親切さを実感できました。また、公の場で、他人にぶつかったり

したら、お互い「すみません」と言うのがよく見かける風景です。お互い尊敬し合うことによって、平和に暮らしていることを学びました。

高知市職員は、勤務時間の前に出勤し、休み時間が終わる5分前にもう自分の席に戻ること、要するに、時間を守ることを学びました。それをインドネシア・スラバヤに帰っても自分の習慣にしたいと思っています。

3. 帰国後の展望

この研修で様々な知識を得ました。スラバヤで活かしたいのは高知市情報政策課が利用しているシステムです。それによって、スラバヤ市の職員がより業務や市民への対応に集中できるように、情報技術に関しては民間業者に委託しながら、関連部署も管理することをスラバヤ市に提案をしたいと思います。

帰国後、スラバヤ市にも報告書を提出しますが、特に高知市のインフラ管理等の今後のスラバヤ市に役立つことを提案したいと思います。